

【別紙3】

地質調査共通仕様書

平成27年10月

愛知県建設部建築局公営住宅課

目次

1章 一般事項	1
2章 ボーリング	2
3章 土の標準貫入試験	2
4章 提出図書試料	3

1 章 一 般 事 項

適 用	<ol style="list-style-type: none">1. 受託者は、愛知県財務規則、委託契約書、設計図書、公共住宅建設工事共通仕様書及び本仕様書に基づいて監督員の指示に従い、完全に調査すること。2. 本仕様書はそれぞれの該当事項に限って、これを適用する。
提 出 書 類	<p>受託者は、次の書類を監督員を経て提出すること。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 契約締結より5日以内<ol style="list-style-type: none">イ 管理技術者及び照査技術者選任届（様式第1） 1部ロ 工程表（様式第2） 1部2. 定期報告 作業日誌 1部3. 竣工時 完了届（様式第3） 1部
記 録 写 真	<p>作業写真を監督員の指示に従い提出すること。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 調査ヶ所2. 検尺時3. その他監督員が必要と認めたヶ所
調 査 計 画 書	着手に先立ち、調査計画書を作成し、監督員の承諾を受けること。
調 査 管 理	調査中受託者は、絶えず調査の取締りを行い、地域外には危害を加えないよう注意すること。万一損傷を与えた時は、監督員の指示どおり直ちに復旧すること。
作 業 の 検 査	外業・内業については、随時検査を行う。
竣 工 時	竣工後は、竣工検査を受け、所定の手続きを経て一切の図書・試料品の引渡しを完了すること。
疑 義	設計図・仕様書・その他調査上疑問を生じた場合又は設計図にある調査地点及び調査深度で、地質の状態が充分把握できない場合は監督員の指示を受けること。
そ の 他	竣工検査後、疑問が生じた場合には、説明を要求することがある。

2 章 ボーリング

機 械	<ol style="list-style-type: none">1. ロータリー式ボーリング機械を使うこと。岩盤掘削の場合は主にダイヤモンドビットを使用した高速オイルフィード型とする。 軟弱地盤の場合は、低速ハンドフィード型とする。2. 作業実施前には、資材の点検・整備に充分注意すること。
孔 径	直径は、6.5～15cm の範囲のうち、原則としては 66mm を使用する。
孔 壁 の 保 護	<ol style="list-style-type: none">1. 地表付近、特に地下水位前後は、ドライブパイプを打ち込んで、孔口付近の保護をする。2. ケーシングパイプは、掘削泥水の使用できない場合、又は孔壁の崩壊が激しく掘削泥水で孔壁の保護が不可能な場合に使用する。 なお、ケーシングパイプの挿入は、慎重に行い、試料採取位置よりも少なくとも 1 m 程度上方でとめること。3. 通常の場合は、掘削泥水で孔壁を保護する。 掘削泥水は、膨潤度が大きく、水和力の強いベントナイトを使用する。水・ベントナイト比は 4 : 1、比重は 1.06 程度とする。
孔 底 の 清 掃	できる限り掘削中にセジメントチューブ等を使用して、サンプリング前に孔底の清掃に努める。 清掃は通常、コアチューブにより水洗いするが、その際、ポンプの送水圧に注意すること。 地下水位以上の不飽和な土の場合は、泥水洗浄ではなく、ヘリカルオーガー又は、バレルオーガーをもって土を削り取るように清掃を行うこと。

3 章 土の標準貫入試験

定 義	現位置における土の硬軟、締まり具合の相対値を知るためN値を求める方法である。 N値とは、重量 63.5 ± 0.5 kg のドライブハンマーを 76 ± 1 cm 自由落下させ標準貫入試験用サンプラーを 30cm 打込むのに要する打撃数である。
標準貫入試験用サンプラー	シュー、2つ割りにできるスプリットバーレル及びコネクターヘッドからなる鋼製のサンプラーである。 全長 81.0 ± 0.1 cm、外径 5.1 ± 0.1 cm、内径 3.5 ± 0.1 cm、 シュー角度 $\phi 19^{\circ} 45' \pm 8'$
ボーリング	JIS M 1409 (試スイ用ボーリングロッド) に規定する呼び径 40.5 mm の

ロ ッ ド	もの、またボーリングロッドカップリングは、JIS M 1410（試スイ用ボーリングロッドカップリング）に規定する呼径 40.5 mmのもの。
ノ ッ キ ン グ ブ ロ ッ ク	ドライブハンマーの打撃を受ける鋼製のもので JIS A 1219 の例に準じたもの。
ド ラ イ ブ ハ ン マ ー	鎖の部分を除いた重量が 63.5±0.5kg の鋼製ハンマーで原則として真棒式のものとする。
落 下 用 具	ハンマーをもちあげて、自由に落下させることのできるもの。
ボ ー リ ン グ	孔径は原則として 66mm とする。作業においては 2 章ボーリング仕様にならない、孔底以下の地盤を乱さないように注意すること。
標準貫入試験	<p>サンプラーをロッドに持続し、静かに孔底におろし、ハンマーの打撃によって 15cm の予備打ち、30cm の本打ち、約 5cm の後打ちを行う。</p> <p>本打の場合、ハンマーの落下高は 75cm とし、ハンマーは自由落下させる。本打ちにおいては、打撃 1 回ごとの累計貫入量を測定する。</p> <p>ただし、1 回の貫入量が 2cm 未満の場合は貫入量 10cm ごとの打撃数を記録してもよい。特に必要のない限り、60 回を限度とし、その時の累計貫入量を測定する。</p>
試料及び観察 及び整備	地表にサンプラーをあげ、スプリットバーレルを 2 つに割り採取試料の観察を行う。代表的な試料を透明な容器に密封し所要の記載を行う。
試 験 ヶ 所	1 m 毎に行う。
試 験 結 果 の 記 録	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本打ち開始深さ及び本打ち終了深さを記録。 2. 打撃数と累計貫入量の関係を図示する。 3. 本打ち 30cm に対する打撃数に近い整数値を読み取り、N 値として記録する。 4. 採取試料の観察結果を記録する。

4 章 提出図書試料

試 験 結 果 一 覧 図	<p>調査地点、調査 NO、年月日、標高孔内水位、標尺、標高、深度、層厚柱状図、色調、土質、観察、相対密度、コンシステンシー、N 値、N 値グラフを記入する。</p> <p>位置を示す緯度・経度は 10 分の 1 秒以上の精度とする。標高は TP ポイントによる。単位系は S I 単位系で表示する。</p>
------------------	--

- 試料品
1. 調査地点、調査 NO、試料 NO、試験深度、土質、N 値、採取年月日を記入する。
 2. 特記事項は、色調及び含有物や有機成分、できれば特異な鉱物成分についても記録する。
 3. 容器は、透明なもので密閉できること。サイズは内径 4cm、高さ 10cm 程度のガラス管あるいは塩ビ管とする。

- 調査結果
1. 試験結果一覧図より、地盤縦断面図を作成する。
 2. 調査結果から判明する事項の解析説明書、構成土質、深さ方向の強度変化、支持層の位置（地表からの深さと配列）、軟弱層の有無（圧密沈下計算の対象となる土層の厚さ）、排水条件、液状化（200gal、350gal）の判定、その他を報告書に記載する。
砂地盤については、相対密度、内部摩擦角、沈下に対する許容支持力、支持力係数、弾性係数等を記載する。
粘土地盤については、コンシステンシー、一軸圧縮強さ（粘着力）、破壊に対する限度及び許容支持力、等も記載する。
上記の結果から、構築物の基礎の構造、種類についての参考事項も検討すること。

- 電子納品
1. 本業務は電子納品の対象業務とする。
 2. 本業務の成果品の対象とする成果品やその作成については、「愛知県電子納品運用ガイドライン（案）」及びその中に示す各種要領・基準に基づくこととする。
 3. 電子納品の対象とする成果品の部数は電子媒体（CD-R）3部とする。
 4. 受注者は、電子納品に必要なハード及びソフト環境の整備を行うものとする。
 5. 納品物については、公共事業の円滑な執行を目的に、関係者（他の工事業者やコンサルタント等）に貸与することがある。
 6. その他、電子納品に関する詳細な取扱いについては、受発注者による協議の上発注者の指示に従うこと。

提出部数 電子納品にあわせて下記のとおり提出すること。

報告書（A 4 製本 電子納品共）	3 部
標本（試料品）	1 部

※成果品には採用した測地系の種類（日本測地系・世界測地系の別）を明記すること。）